

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第19号—

令和2年9月8日

平戸市立津吉小学校

文責 校長 田川定司

台風のお見舞い申し上げます

いつもより短い夏休みが終わり、9月1日から2学期がはじまると同時に、相次ぐ台風のため、臨時休業となってしまいました。これまでに経験のない暴風と大雨を伴う台風10号という予告でしたが、被害はなかったでしょうか。津吉小学校も避難所として体育館を開放し、100名を超える地域の皆様の避難場所となりました。学校自体は大きな被害を受けませんでした。台風接近のため、昨日の臨時休業に続き、本日も午前中だけの授業となってしまいました。学校での活動を楽しみにしている子供たちや、臨時休業中、子供を見守る保護者の皆様には、大変申し訳なく思います。



学校では、先週からは「津吉っ子の心を見つめる教育週間」がスタートし、道徳の授業参観やメディア講習会のあった金曜日には、多くの来校者がありました。教育週間は今週水曜日まで続きますので、ぜひ来校し、子供たちの頑張りをご参観ください。

さて、この夏は、東京オリンピックの延期や各種イベントの中止など、新型コロナウイルス感染症の拡大が、暗い影を落としています。先の見通せない世の中の中、病気に対する不安も広がり、病気に対する差別や風評の広がりが懸念されるようになってきました。「コロナ」という見えない敵と闘う中で、「コロナ」という病気を相手にしているはずなのに、病気になった人を仲間外れにしたり、いじめたりしてしまうことが、子供ではなく大人の中で起こってきました。見えない敵である「コロナ」という病気には怖さを感じるとは思いますが、新型コロナウイルス感染によるいじめや差別、風評の広がりをなくすよう心を広げ、感染症をみんなの力で乗り越えていきたいと思います。



津吉小学校では、「あたたかい子」の育成を目指す児童像に据え、ご家族や地域の皆様の温かい愛情の中、心豊かで思いやりのある子供たちに育っています。仲間を大切にできる子供たちです。病気になって苦しい思いをしている仲間がいたら、みんなで見守り応援し、治ったら温かく迎えて上げるように話をしています。

おりしも、文部科学省から「保護者や地域の皆様へ」と題し、裏面のようなメッセージも出されました。ぜひ、ご一読いただければ幸いです。

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒や学生が、必要となる力を身に付けて等いことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に活かしていただきたいと思います。

令和二年八月

文部科学大臣 萩生田光一